＜６　吉祥寺美術館＞

・吉祥寺美術館は、吉祥寺駅から徒歩３分という好立地にある商業施設のワンフロアとして位置している。職員は館長以下計６名の職員で、記念展示室２室と企画展示室の運営、音楽室の貸出、ミュージアムショップの運営を行っている。展示室の展示内容、関連イベントなどの企画は、うち３名の学芸員が担っている。ミュージアムショップの運営や、展示室の監視などは外部委託を行っている。

・所蔵作品は、市にゆかりのある作家・作品を中心に約 2,500 点。浜口陽三氏及び萩原英雄氏の作品は、記念展示室を設け、年３～４回のテーマ展示を行っている。企画展は、学芸員の企画提案について、専門家の意見もいただきながら、あらゆるジャンルから幅広く実施している。ただし、立地や施設の制約から、展示が難しいもの（大型のものや、特に厳密な湿度管理の必要なものなど）もある。

・吉祥寺美術館の管理運営に要する費用は１億 3,497 万円で、うち指定管理料が 8,367 万円、美術館施設借上料 3,611 万円、収蔵庫借上料で 1,179 万円（平成 30 年度決算）。美術品購入予算は 200 万円、修繕予算は 450 万円。

・企画展の内容によるところが大きいが、年間 200 日以上は企画展を開催し、おおむね 30,000 人前後の入館者がいる。市外からの観覧者の割合も多く、また、来館者の多くが事前に情報を得て来館（美術館を目的に来館）していると回答しており、わずかとはいえ、来街者に影響を与えていると考えられる。

・吉祥寺美術館設立時のコンセプトも踏まえながら、企画展に関連したワークショップや講演会を実施しており、美術館としては、音楽室がそのような場として活用されている。

・音楽室だけでなく、コミセンやその他施設等からの依頼で、アウトリーチで所蔵作家・作品等に関するお話などを行うこともある。また、企画展の内容によっては、市内のギャラリーや公共施設と連携した展示・イベントを行ってもおり、数は少ないが、吉祥寺美術館内だけにとどまらない事業展開を図っている。

・音楽室は、音楽系の練習利用がほとんどを占めており、市民の文化活動の場所の一つとなっているが、防音等の関係で、他の練習室と比べると制限は多い。

・企画展のテーマも、所蔵作家・作品だけでなく、絵本などの子どもたちも親しみやすいテーマや、立体・空間の展示テーマなど、満遍なく企画している。どの企画展でも、初めて来館したという人が一定割合を占めており、値段やアクセスも相まって、美術館に来館するきっかけを提供していると考えられる。

・市民ギャラリーは、利用団体が適度に入れ替わりながら、毎年、ほぼ 100％の利用状況となっており、市民等の創作活動の発表の場となっている。

・特別展として 29 年度から実施している「武蔵野アール・ブリュット」展では、市民からなる実行委員会の事務局を美術館がつとめ、企画から運営まで、市民との協働で取り組んでいる。

＜７　吉祥寺シアター＞

・吉祥寺シアターは、吉祥寺東部地区（イースト吉祥寺）の新たなイメージを創出することを目的に開設された施設。近隣には、吉祥寺図書館や、本町コミュニティセンター等の公共施設がある立地。職員は支配人以下計５名で、主催・共催等の公演事業の企画・運営と、劇場及びけいこ場の貸出を行っている。カフェの運営は、外部団体に委託しているが、公演団体とのコラボメニュー等、シアター職員も関わりながら運営している。

・吉祥寺シアターの管理運営に要する費用は 9,133 万円で、うち指定管理料が 7,367 万円（平成 30 年度決算）。

・開設時のコンセプトを踏まえ、舞台芸術に特化した施設の特性を活かしたダンスプログラムの企画制作や、共催・提携・協力という枠組を活用した公演の提供に努めており、マスメディアでの取り扱い件数も多く、優れた芸術文化作品の鑑賞の場となっているだけでなく、吉祥寺シアターのステータスを向上させることにも貢献していると言える。

・地域に開かれた劇場であることを念頭に、カフェの運営にとどまらず、公演に伴うワークショップやアフタートーク等も取り入れ、舞台芸術を通じた新たな交流を生み出し、地域の活性化にもつながるような取り組みがみられます。

・近年力を入れているファミリーシアタープロジェクトや、地元アーティストのトークショー等は、劇場に馴染みのない市民や、次世代を担う子ども・青少年と吉祥寺シアターをつなぐプログラムにもなっている。

・劇場はほぼ演劇、けいこ場は演劇とダンスの練習の場となっており、舞台芸術に特化した施設として、その特性が充分に活用されていることが分かる。一方、利用率は非常に高く、連続利用がメインとなりがちな使用状況と合わせると、特に劇場については気軽に使える活動（発表）の場という役割は担っていない状況。

・劇場利用の内訳を入場料別にみると、関係者のみ案内の事業はなく、すべて公開の事業となっている。８割以上が 3,000 円以上の公演であり、一定の質を求められる事業となっていると言える。

・文化事業団が主催等した 30 年度の公演（演目を１件とカウント）21 事業のうち、新聞記事として取り上げられた公演は７事業、朝日新聞 30 年度の演劇評 57 件のうち、吉祥寺シアターは２件取り上げられていることからも、吉祥寺シアターのステータス向上・発信に十分に貢献していると言える。

・観劇者の内訳としては、公演にもよるが、アンケートに住所を記載した 79 名のうち半数が都外在住者であり、上演劇団の固定ファンが多いとは思われるが、東京まで足を運ばせる魅力のある公演を上演できていると言える。

＜８　武蔵野公会堂＞

・武蔵野公会堂は、吉祥寺駅から徒歩２分という好立地にあり、古い施設でバリアフリーにも課題のある施設ではあるが、高い利用率で推移している。職員は支配人以下計４名で、ホール、６つの会議室、２つの和室の貸出を行っている。文化事業団の主催事業は、年間４本実施されているが、これらの企画運営は市民文化会館の事業スタッフにより実施されている。

・公会堂の管理運営に要する費用は 8,862 万円で、うち指定管理料が 5,723 万円。文化事業団主催の４事業の経費はこれに含まれていない。

・ホールの目的別利用状況は、音楽系の利用が多く、次いで講演会・大会の順にはなるが、舞台芸術や古典芸能等も含んだ、芸術文化的要素を有する使用が７～８割を占めている状況。

・ホール利用の内訳を入場料別にみると、４割弱は関係者のみの案内となっており、関係者のみの教室の発表会や、企業の社員研修等が行われている。残る６割強は、発表の場であるとともに、来場者に提供するプログラムという性格も有しているが、料金帯としては、無料や比較的安価なものが多い状況である。

・会議室や和室の利用状況は、会議他の利用が大半を占めており、その利用団体の内訳は、地域団体や数人のグループから、企業や自治体・公共機関まで多種多様な状況となっている。また、それぞれ控室としての利用が一定あり、大人数での発表会や、地域イベント等でのホール利用の際に合わせて使用されている。

・主催事業としては、定期的かつ継続的に寄席を開催しており、毎回ほぼ満席となっている。チケット購入者は４割強が市内在住・在勤・在学の方であり、来場者からは、会場の程よい広さが活かされた事業、季節感を感じられる事業（甘酒のふるまい）として、高評価を受けている。